

第55回「市民の皆さんとランチで対話」概要

<p>団 体 名</p>	<p>緑の景観を考える会</p>
<p>開 催 日 時</p>	<p>平成23年3月29日（火） 正午～午後1時</p>
<p>開 催 場 所</p>	<p>市長応接室</p>
<p>出 席 者</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>案 件</p>	<p>能代の緑の景観を日本一にするための提案</p>
<p>会議の概要</p>	<p>市長との対話内容</p> <p>福岡さん：地震対応で忙しいなか開催してもらい感謝している。今日は復興の願いを込めて「ふきのとう」を持ってきた。花言葉は「待望、なかま」。元気をだそうという願いもこめて、先日は大きい作品を市民プラザにも展示した。</p> <p>大類さん：明治神宮外苑や江戸川区、横浜市、カナダの剪定テクニックや街並み景観の参考事例を紹介。電線の有無に関係なく剪定の工夫次第で美しい景観を保つことができる。人と樹木が共存する意識の高さは参考になる。</p> <p>福岡さん：市では今、様々な日本一のまちづくりを進めているが、その中に「街路樹日本一のまちづくり」といった街路樹や公園など街並みの緑の景観づくりも組み入れてほしいと思っている。具体的には、昨年も畠町などで街路樹の強剪定が行われたが、緑を大切にしようと話してくださる市長の思いを形として実現させるために次の対応をお願いしたい。</p> <p>①車道や歩道の道幅、隣接物、その街路の条件によって木の大きさや樹姿は変わる。街並みの景観が常に同じ雰囲気を保てるように、その街路に合わせた街路対応型樹形を定め、樹形を維持するための剪定仕様が必要だと思う。</p> <p>②広々とした道路でも、公園に隣接する街路樹が短く切り詰められていたり、またその逆もある。公園と街路樹は連続する緑の街並み景観として一体であるべき。緑の維持管理に関する庁内の連携を図り、共通認識を持って管理していければと思う。</p> <p>市長：木都能代というとき、3つの「きづかい」がある。一つは、産業という部分の「木」、もう一つは、街なかにある生きている木、もう一つは、我々の心の気（気づかい）。この3つを生かしたまちづくりが木都能代。まだまだ行き届いていない点があるかと思うので、ご指摘頂けるのはありがたい。街路樹を大切にしていきたいという気持ちは基本的にあるということをもまずご理解いただきたい。</p> <p>能代造園技術研究会ができ、ご指導頂きながら剪定作業をやってもらっているので、ご指摘のあった点については、連携しながら進めていきたい。</p> <p>②に対しては、道路管理者、公園管理者が違うため、バラバラな面もあったかもしれないが、庁内で連携しながら進めたい。技術面でも講習しながら連携を進めたい。</p> <p>福岡さん：街路対応型樹形の例として、江戸川区から提供していただいた街路樹指針を参考にしている。切ることは木に負担がかかること。残せる部分は残して、養分補給を考えて欲しい。能代は同じ幅で切り詰めているので、新たに能代方式を考えても良いのではと思う。電線をかかわず剪定事例はある。</p> <p>次に、昨冬の若松町の街路樹剪定は片側のみが行われ、剪定が行われた側の木は大幅に黄葉が遅れた。栄養が足りなくなったのが原因。段階的に剪定すればこ</p>

	<p>のようにはならなかったはずと思う。</p> <p>藤岡さん：葉がない時期に剪定すると木に負担がかからない。</p> <p>市長：今後のために剪定の時期や回数などの判断材料を教えてください。</p> <p>福岡さん：はっきりは言えない。</p> <p>藤岡さん：仕様書があればバラつきが少なくなるが、剪定は業者からの提案が基になる。場所に応じて、街路樹をどうしたいかを考えなければいけない。</p> <p>福岡さん：畠町のプラタナスは冬になっても葉が青いまだだった。</p> <p>市長：畠町はおなごりフェスティバルの会場となるが、以前、歩道の栈敷席にいる観光客から「弁当に虫が落ちた」という話があった。そのような経緯もあり毎年剪定が行われている。</p> <p>福岡さん：冬と夏に剪定するのが良い。夏に枝を抜くと空間ができて、アメシロなどに薬剤散布が届きやすい。</p> <p>藤岡さん：私の地元でも街路樹の虫や鳥による苦情はある。ただ、街路樹がある分、他より美味しい空気を吸えること、夏は涼しいことなど、悪いことばかりではないということと納得してもらえる。</p> <p>福岡さん：けやき公園は、公園内は市管理で隣の街路樹は県管理となるため、切り方や管理方法が違っている。</p> <p>藤岡さん：太もも以上の枝を切ることは木への負担が大きい。切らないことを前提に考えるが、どうしてもという場合は根元から。切り方が悪いと枯れる。傷は治せない。</p> <p>福岡さん：文化会館の樹木を剪定したが、弘前を参考にして切り口に墨汁を入れた。墨汁は殺菌のためで皮膜効果がある。切る角度は大事。現場でその木に合わせてというのは難しいが、切り方、角度等の理論を覚え、意識して剪定仕様書に加えれば、じゅうぶん日本一になれる。仕方ないことだが、職員は2～3年で異動するので、通して見れる人がいればと思う。</p> <p>市長：逆にいうと、資料を作ってしまえば、人が変わっても繋がっていく。資料整備が必要といえる。</p> <p>藤岡さん：改めて能代市内の街路樹をみると、大きくてすばらしいと思った。</p> <p>福岡さん：能代のイチョウは、防火対策のために植えられたが、阪神淡路大震災では、建物が倒れてくるのを防ぐ効果もあった。防災に役立つ。</p> <p>最後に、日本一になるためには、国県市による連携、庁内の情報共有と、協働がキーワードだと思う。植木屋が剪定、行政が交通整理、町内会が清掃という役を担えば、予算がなくてもできるものがある。能代から何か発信できないか。例えばフォーラムでもいい。名古屋で大討論会が行われたが、規模、本数では名古屋に勝てないので、連携・協働がテーマでもいいと思う。</p> <p>市長：連携はそのとおりで、モデルケースを作ればいいと思っている。街路樹に限らず、木を大事にしようという意識を持っている人たちが集まってできることから始めることも大事。国県市の連携はもっと高めていきたい。このような機会は勉強になるので、市に対しても、また、業界内でもお願いしたい。また、木のまちづくりのなかには、街路樹も一つのキーワードになると思う。街路樹を財産として、良い形で残していきたいと思う気持ちは同じなので、行政としても、できることできないことはあるが、今後も提案してもらえればと思う。ちょっと意識を変えればできることもあると思った。</p>
<p>検討事項</p>	